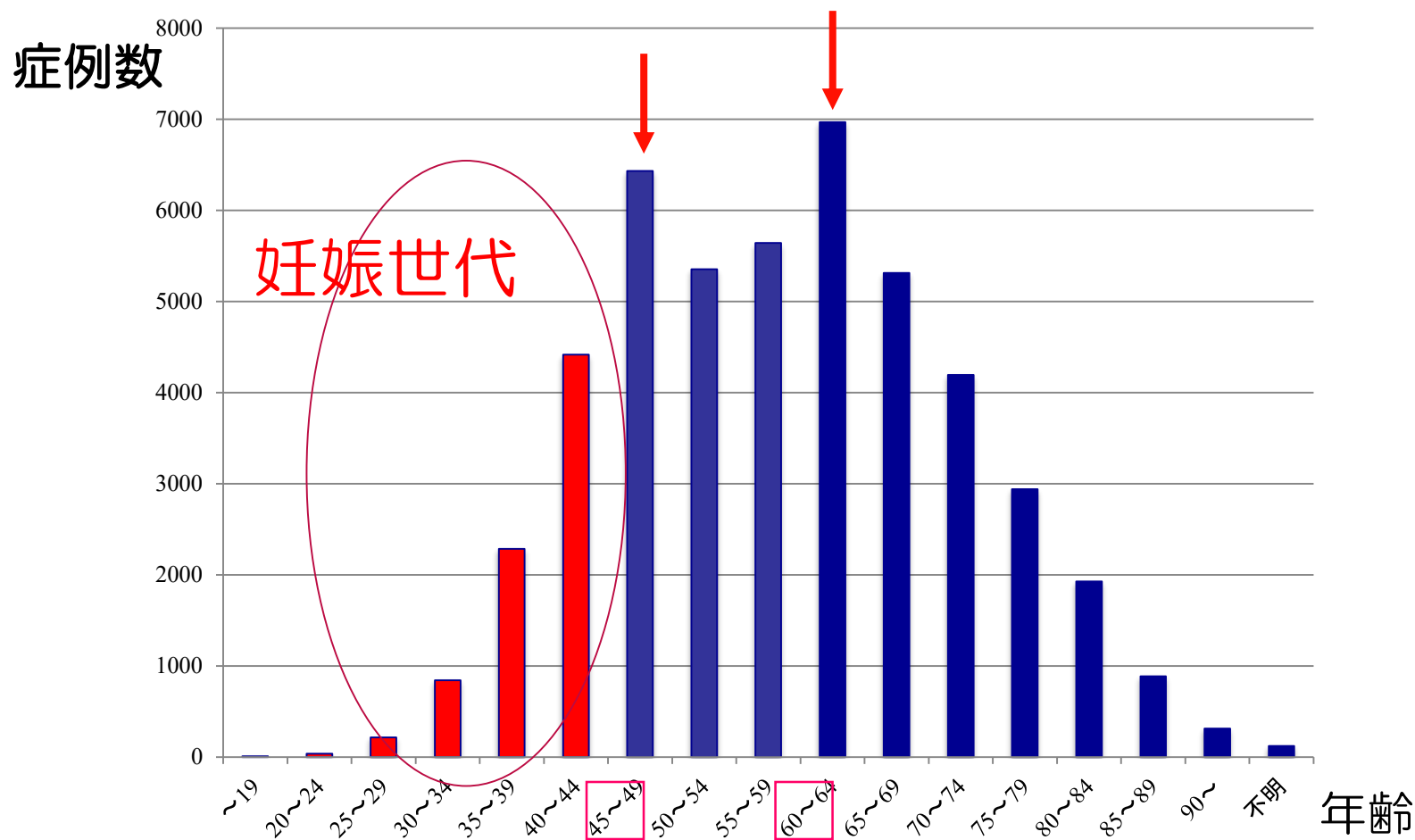


図1 日本女性の乳がんの年齢別罹患数 (日本乳癌学会登録調査2010年)



閉経前乳がんの多発時期と妊娠する時期は重なってきた

図2 乳がんは検診の意義が大きい癌である

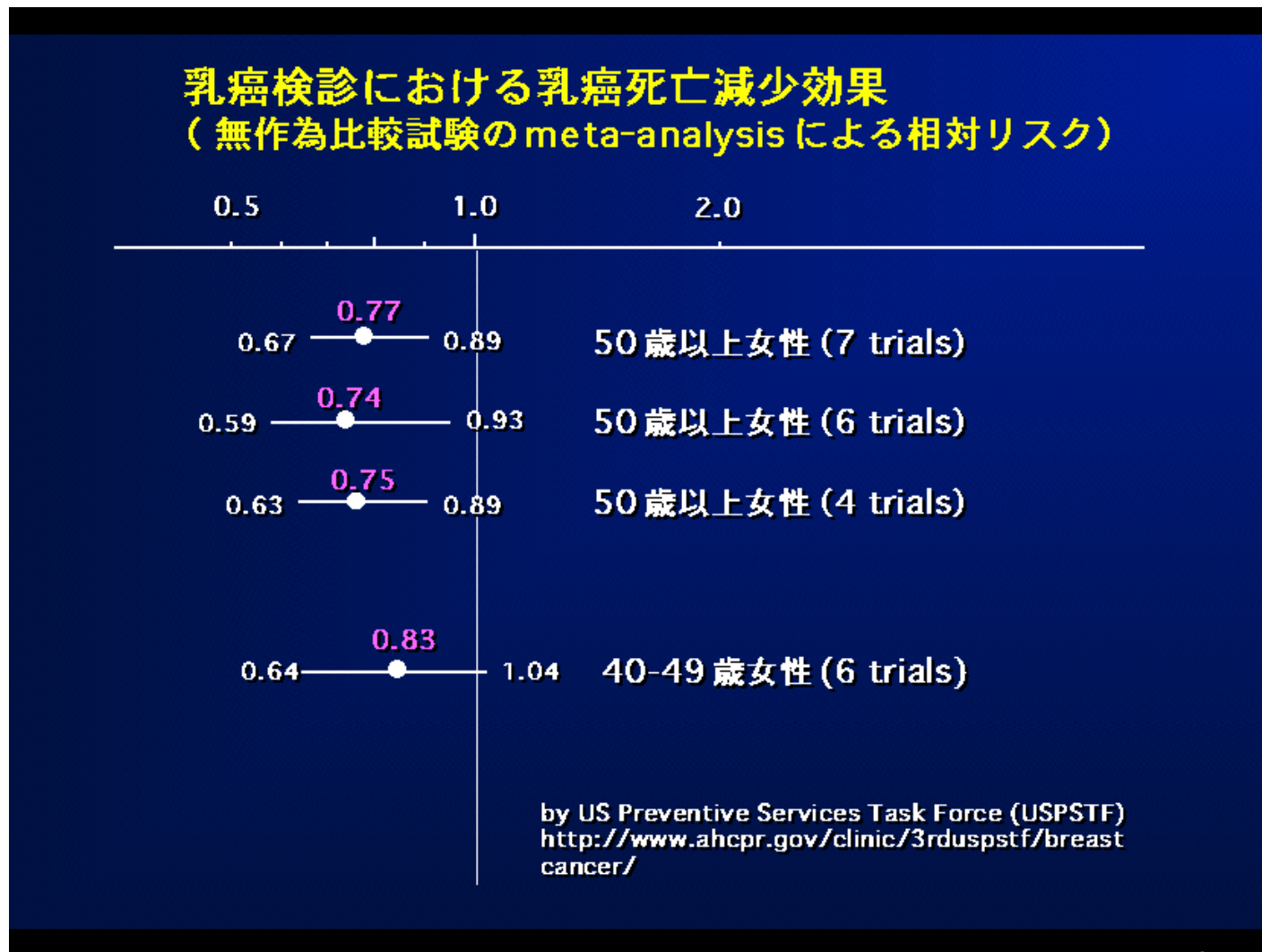


表1 乳腺炎への対応

乳腺炎の種類	感染の有無	症状	治療法
うっ滞性乳腺炎	非感染	疼痛、圧痛のみ	搾乳、腫脹が強い場合は冷罨法
急性化膿性乳腺炎	細菌感染	発赤、発熱	原因菌は、黄色ブドウ球菌や連鎖球菌が多いので、ペニシリン系やセフェム系の抗生物質投与
乳腺膿瘍	細菌感染	膿瘍形成	切開排膿

- 疼痛、圧痛、発赤、熱感などの症状から診断
- 膿瘍の有無については超音波検査が有用である
- マンモグラフィは、高濃度乳腺となり、情報が得られず有用性が低く、疼痛もあり実施しないほうがよい。

表2 NCCNガイドライン：遺伝性乳癌家系の可能性

●以下の1つ以上を満たしている癌罹患患者

- ・家系内で乳癌の易罹患性遺伝子の変異がある
- ・若年発症乳癌（50歳以下）
- ・トリプルネガティブ乳癌
- ・同一患者における2つの原発乳癌
- ・年齢にかかわらず以下の乳癌患者
 - 1) 50歳以下の乳癌に罹患した近親者1名
 - 2) 上皮性卵巣癌に罹患した近親者1名
 - 3) 乳癌あるいは膵癌に罹患した近親者2名以上
- ・乳癌と以下の1つ以上の悪性疾患を併発している血縁者
- ・男性乳癌

●以下の1つ以上の家族歴がある非癌罹患患者

- ・家系内で乳癌の易罹患性遺伝子の変異がある
- ・同一患者における2つの原発乳癌
- ・家系の同じ側に2人以上の乳癌の既往がある
- ・家系の同じ側に1人以上の卵巣癌の患者がある
- ・第一度及び第二度近親者に45歳以下の乳癌
- ・乳癌と以下の1つ以上の悪性疾患を併発している血縁者
- ・男性乳癌

表3 HBOC変異陽性者の取り扱い例

対象臓器	検査	時機
乳癌検診	18歳からの自己検診指導	
	25歳から視触診・USG	6か月毎
	MMG	1年毎
	MRI	適宜
卵巣・卵管検診	内診 経膈UGS CA125測定	3～6か月毎
	MRI/PET	1年毎
RRM/RRSOの施行 時期例	<ul style="list-style-type: none"> ● 40歳までに ● 妊娠・分娩の終了を待って 	

RRM: 予防的乳腺切除

RRSO: 予防的卵巣卵管切除